

# 地域おこし協力隊 任期満了のご報告と御礼！



～巨大野菜オブジェ制作～  
留寿都村ふる里公園内に設置・展示してありますのでぜひご覧ください。



～巨大テトラポッドオブジェ制作～  
神恵内村・神恵内地域おこし協力隊に協力いただいて制作

地域おこし協力隊として平成29年に着任しました長谷川雄一、北川健治は、本年3月末日をもって任期を終了いたします。村民の方々には数え切れないほどのお世話をさせていただきました。簡単なものではございますが、終了にあたり、これまでの活動報告をさせていただきます。そして、ほんとうにありがとうございます！

アートってやっぱり楽しい  
期間を通して感じた可能性

地域おこし協力隊 長谷川 雄一

地域おこし協力隊の長谷川雄一です。地域おこし協力隊として留寿都村へ訪れてから早いもので3年の月日が経ちました。訪れた当初は右も左もわからず地域おこし協力隊として一体どのように活動して良いかわからない不慣れな日々を過ごしました。1年目はとにかく留寿都村で生活していくリズムをつかむことで、一杯一杯になっていったと思います。

2年目、3年目は自身の希望していた文化芸術を切り口に様々な挑戦をさせていただきました。協力していただいた方々や支援していただいた方々にとっても感謝しております。協力隊期間中留寿都村民の皆さん全員とは繋がるのが少なかったのですが、興味を持って声をかけてくださった方々や協力していただいた方々そして関わっていただいた方々にこの場を借りて重ねて感謝申し上げます。

農作物の収穫体験をさせていただいてご指導をいただいたり、村の歴史についての話や、丁寧に説明していただいたり接していただいたことがとても印象深くふと時々思い出したりしております。そして、村内行事にもたくさん顔を出させていただきました。行事にただ参加するのではなく、裏方として、おもてなす側の側面から見ることで、祭りの重要性や目に見えない作業、手間の部分を知

ることができたので、とても貴重な体験をさせていただきました。

協力隊として3年間様々な活動をさせていただきましたが、行事や企ての中で毎度のように出てくる課題が人手・担い手問題で、人口減少という問題がいかに深刻かということを感じた期間でもありました。地域を盛り上げるための企てがあったとしてもなかなか実施までに至らないことや、実施を試みても単発的で継続しない取り組みになってしまう等、できることよりもできない理由の方が先に集まってしまうのが現状です。留寿都村に訪れる人の流れが多いにも関わらず、仕掛けることができない歯がゆさは今後なんとか突破していきたいです。

人口減少の課題は留寿都村だけではなく後志を含めた北海道全体の大きな課題であるので、これからは個人個人が問題意識を持って魅力を発揮し連携をしていく必要があると考えております。私は、協力隊任期終了後は今まで培わせて頂いた文化芸術活動を元に子ども達との関わり合いや地域で実施できる企てを引き続きしていきたいと考えております。まだまだ試行錯誤の最中ですが、どうか今後も温かい目で見守っていただけたらとお願い申し上げます。

村内や村外でうるちよろしておりますので、見かけた際は気軽に声をかけていただけると幸いです。

**留寿都村の野菜は宝物、それを実感できる毎日でした**

**地域おこし協力隊 北川 健治**

地域おこし協力隊として、留寿都村に移住してほぼ3年、まもなく任期も終了となっております。それまでの兵庫県明石市で水産物のブランド化事業に、そしてその後は、大阪の組合事務局で輸出の事業に携わった経験から、そこで習得したスキルを他の地域でも生かせ、少しでもその地域の活性化のお役にたつことができないだろうかという思いで、この

地にやって参りました。別に明石市だけでなく、人口減少により、将来展望としてたいへん厳しい世の中で、どの地域でも生き残りには必須の方策であり、有効な手法と想ったからです。

ただ、関西と北海道、緯度も大きく異なりますので、まず1年目は“この地域のことを知る”を目標に、農業体験や、さまざまなまつりなどにもイベントのお手伝いとして参加させていただきました。想像以上の厳しい気候もありましたが、楽しい思い出もいっぱいいただきました。

また、さまざまな農産物（初めて見るものもいっぱいありました！）のことも、ほんとうに丁寧に教えていただきました。そして2年目以降、村の農産物の販路拡大を目指すために、その農産物のよさ、おいしさをPRすることから始めました。

札幌や千葉・幕張メッセなどでの国際商談会などのイベントには、大阪で勤務していた組合の関係で、展示ブースの一部を北海道・留寿都村コーナーに持って行って製品のPRを行ったり、また、その延長で、マカオのバイヤーさんに留寿都村に来てもらい、留寿都村をしっかりと気に入ってもらうことができました。その時の種は、昨年の十一月に“マカオ・フード・フェスティバル”（マカオで行なわれる食の祭典）の特設コーナーを“北海道村”にしていたとき、意義のある留寿都村を含めた北海道PRができたと思っております。ちなみに、蒸した

“キタアカリ”をマカオの人に食べてもらったのですが、「ワンダフル！」の連続でした。それも最初は「試食してみて！おいしいポテトですよ」と言っても「えーっ、ポテトなんていらん」、それでも「北海道留寿都村産で、いま、この地で売っているものと質が違うから」。それで恐る恐る口に入れると「ワンダフル！」に変わるのです！

まだまだPRができていなく、単に知られていないだけで、ほんとうに好まれる優れた食材が、留寿都村にはいっぱいあります。私自身は今後も輸出の事業は続けていきます。よろしくお願ひ申し上げます。そしてこれまで本当にありがとうございます！

**留寿都村役場  
企画観光課より**

地域おこし協力隊とは、総務省が進めている制度で地域おこしを目的に首都圏等より地方に住みたい希望者を隊員として最長3年間地方に住んでもらい、地域の活性化を図る制度です。令和元年度では日本全体で5千3百人ほど活動しております。

この度、商工・観光振興で、企画観光課所管により委嘱していた隊員が、3月末で任期満了を迎えることになり、起業を計画している2人より、3年間のまとめとしての報告と、今後の隊員の個人の活動についてお知らせするものです。この3年間の経験を生かして、今後も活動する彼らを、村の中で会った際にはひと声掛けて頂ければと思います。

**編集・発行**

留寿都村地域おこし協力隊

北川 健治  
長谷川 雄一



長谷川隊員とシンガポールでプレゼン